

# あまこうだより

～凡事徹底～大事を成すには小事から～

## 機械電気科 「管工事出前授業」



皆さんが普段使っている水道や電気。蛇口をひねれば水が出て、スイッチを押すと電気が入りますが、それがどれほど貴重なことか感じながら

生活している人は少ないでしょう。

11月14日(火)に行われた「管工事出前授業」は、そんな生活の当たり前がどうやって成り立っているのかわかることから始まりました。講師は、鹿児島県管工事業協同組合連合会、奄美市管工事共同組合の皆様でした。

まず、管工事業会の説明や管工事業の仕事内容を教室で学んだ後、2時間かけて管工事の実技を行いました。2年生19人が2グループに分かれて取り組みました。蛇口から水が

出るまでの一連の配管作業や、鋼管ねじ切りなどを実演していただき、体験させていただきました。授業で学んでいても、実際に行う各種パイプの切断や溶接などは難しかったです。

管工事の存在の大きさは生活の表面には出てきにくいですが、私たちの生活にはなくてはならないものであり、それを担う仕事はやりがいのある仕事だと思います。進路を考える上でも非常に参考になりました。

## 【商業科・情報処理科】奄ふるプロジェクトに向けて

この号が皆様のもとに届く頃には無事に終わっているはずの「奄ふるプロジェクト」。現在は実施日前で、3年生がそれぞれの係で、それぞれが精一杯準備に取り組んでいるところです。

今年度の新しい企画に「しまんちゅ学園」があります。ツアーのお客様を本校にお招きし、体育館で島の文化に触れていただくという内容ですが、その事前練習を11月6日(木)に行いました。お客様として情報処

理科の1,2年生に協力してもらいました。「しまんちゅ学園」では「紬のはぎれを使ったワークショップ」、「島口講座」、「音楽(島唄・踊り)講座」の三つの講座を用意しました。

それぞれ時間を区切り、通して練習しました。これまで机上で考えていたことを、実際にやってみると多くの課題が出てきました。終了後、各講座の担当者ごとで反省会を行い、改善点などを話し合いました。「お客様も、生徒も、みんな楽しく！」を

大事に、本番に向けてしっかり準備しています。次号では奄ふるプロジェクト本番の様子をお伝えしますのでお楽しみに！



## 【家政科】被服特別講座・泥染め体験授業



今月の「あまかせ」からは、1年生の二つの行事について御紹介します。

11月9日(木)に、鹿児島純心女子短期大学の宮地真奈美准教授による

「被服に関する特別講座」が行われました。布を用いて直接ボディにデザインをし、型紙に展開するという内容の講座でした。普段受けているファッションの授業とは違う作業に苦戦しながらも、服の構成とデザインについて楽しく学ぶことができました。

もう一つは、11月15日(水)に行った「泥染め体験授業」です。家政科では、3年間をかけて本場奄美大島紬について学びます。1年生では泥染め、2年生では機織り、3年生では着付け

と、紬について体系的に学び、地元の伝統文化を継承し発展させていく人材になることを目指しています。

今回は1年生ですので、大島紬村で泥染めを体験しました。初めに泥染めについて学んだ後、一枚の布を輪ゴムや紐でくくり、絞りの柄をデザインします。そして、シャリンバイの染料に浸けた後、泥田に入り、布を浸します。泥田に入ってから作業は大変でしたが、素敵な作品ができあがるとその大変さも一気に吹き飛びました。

## 【衛生看護科】戴帽式

看護師を目指す人の一番の憧れといってもいい「ナースキャップ」。現在では着けないスタイルの病院も多くなっているようですが、やはり看護師を象徴するものだと思います。そのナースキャップを戴く(=頭に載せる)儀式「戴帽式(たいぼうしき)」が11月8日(水)に行われました。

看護師にとって戴帽式は、看護師の第一歩を踏み出すという意味で非常に大事な式です。厳かな雰囲気の中で、緊張感を表情にたたえた2年生13人が、担任の先生からナース

キャップを着けていただきました。ナイチンゲール像のろうそくから灯を分けてもらい、ナイチンゲール誓詞を全員で唱和し、看護の理念をしっかりと受け継ぎました。

森元智恵さんが戴帽生を代表して、これまで関わってくださった全ての方への感謝の気持ちと患者様に寄り添える看護師になるために、今後も努力を続けていくという決意を述べました。

戴帽式翌日から始まる看護臨地実習からすぐにナースキャップの重み

を感じることをと思いますが、感謝の気持ちと向上心をもって、一步ずつ理想の看護師に近づいていけるよう頑張りたいです。

